

印南町の切目川を活かしたまちづくり

和歌山県 印南町 切目川エコクラブ 会長 森川 要
ビオトープ部長 ○中田 稔

1. 活動方針・目的

自然豊かな地域、自然が豊かな今だからこそ、自然の大切さを訴えていきたい。

2. 活動内容

人々に自然に親しんでもらえる環境を整備する「ビオトープ部」と、様々な体験会などを開く「イベント部」の二つから構成されています。毎年二月下旬から三月月上旬にかけて開催するホテルの幼虫の放流（今年は三月に開催予定）、六月には自然のなかで自由に遊ぶプレイパークとホテルの鑑賞会、そして有機農法による無農薬米を栽培するためのアイガモ農法を毎年実施していますが、ほかにも印南町内などのイベントへの出典・参加、現地での生物の鑑賞会などの活動を随時おこなっています。

3. 過去の失敗事例

水稲田の上土を掘り起こし、水を通した（ビオトープ）水質浄化にと、一株植えたツルヨシが最初一・二年は、良かったが、成長がとても早くビオトープを覆いつくした。

1999年より十年ビオトープの管理が大変です、草刈・イノシシの被害など自然のままにすることの難しさを体験しています。

4. 今後の課題等

特に力を入れているのは牛乳パックを使ったドングリの森づくり。牛乳パックと土、ドングリがあれば簡単に苗木づくりができます。ホテルの幼虫の法隆寺に合わせて子どもたちと一緒に苗木をつくり、翌年に成長した苗木を植えると、小どもたちが大きくなる頃には立派な樹木に成長します。そしてその木々が保水力の向上や水の浄化といった役割を持つ「涵養（かんよう）林」を構成していきます。小どもたちに木の成長を楽しんでもらいながら、将来の自然環境保全に向けた取り組みをおこなっているのです。

切目川の自然保全を願って

切目川エコクラブ/ビオトープ部
和歌山県日高郡印南町古井391-1
<http://www5.ocn.ne.jp/~biotope>

〈活動の内容〉

- 和歌山県のほぼ中心部に位置する切目川は、あまりにも自然が豊か過ぎて、迫りくる危機に気がつきにくく、自然に触れて外で遊ぶ子どもたちの姿も見えない、子どもたちの笑い声を聞きたくて、生きた環境学習の場を提供することで農地の有効活用や里山の暮らしを子どもたちと共に体験し五感を養い「環境変化の気づき」となる。

切目川 エコクラブ 組織図

切目川エコクラブ

会長 森川 要

副会長 日裏 勝己

イベント 部

部長 貴志まこと

副部長 中村泰介

ビオトープ 部

部長 中田 稔

副部長 山本育男

事務局 ビオトープ切目川 中田 稔 <http://www5.ocn.ne.jp/~biotope/>





池の造成やホタルの養殖

印南町古井の中田稔さん

生物の楽園作りに挑戦

「古里の自然守りたい」と

山田入道「後継者がいない、川川と池を維持したい」と、中田稔さん(58)が、古里の自然を守りたいと、池の造成やホタルの養殖に取り組んでいる。中田さんは、古里の自然を守りたいと、池の造成やホタルの養殖に取り組んでいる。中田さんは、古里の自然を守りたいと、池の造成やホタルの養殖に取り組んでいる。

進む下水道整備 川辺町の進捗

川辺町の下水道整備は、今年度で完了する見込みだ。川辺町の下水道整備は、今年度で完了する見込みだ。川辺町の下水道整備は、今年度で完了する見込みだ。







和歌山ほたるネット

発足 平成16年2月28日和歌山県日高郡印南町切目川にて創立総会

目的 ホタルの生息環境を守り、ホタルの保護増殖を行うことによって、和歌山県民の生活環境を良くし、あわせて会員の親睦と情報交換を図ることを目的とする。

事業

- ホタルの棲む河川のあり方の研究、提言
- 体験・研究成果の交流
- ホタルの保護、増殖方法の研究とホタル幼虫の放流・技術の指導育成

